

「子どもの読み解く力」育成事業

事業の趣旨

PISA2018の結果において、日本の読解力の平均得点・順位の低下が明らかになった。また、Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会(平成30年6月5日)において、どのような時代にも共通して求められる力として、文章や情報を正確に読み解き対話する力が挙げられている。様々な情報を理解して考えを形成し、文章等により表現していくために必要な読解力は、学習の基盤として時代を超えて常に重要なものであり、これからの時代においてもその重要性が変わることはない。情報化の進展の中でますます高まる読解力の重要性とは裏腹に、子どもたちが教科書の文章ですら読み解けていないのではないかとの問題提起もあり、すべての学習の基盤となる言語能力の育成を重視することが求められている。

「子どもの読み解く力」育成事業では、協力校において、子どもたちの読み解く力を把握し、その課題を解決するための授業改善に取り組むことで、子どもたちの読み解く力の育成を図り、学力向上につなげるとともに、その成果の普及を図る。

「子どもの読み解く力」育成事業について掲載してあります。

- 1 「子どもの読み解く力」育成事業について
- 2 「子どもの読み解く力」とは
- 3 3年間の分析結果から
- 4 「子どもの読み解く力」を育成する授業改善の13のアイデア
- 5 【参考資料】あしすと57号、64号

富山県教育委員会小中学校課 作成